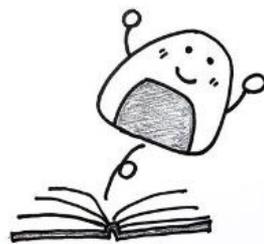


2016 年度

## おむすびころりん愛知 事業報告書

——外国にルーツを持つ子どもと親の読書活動をサポート——



おむすびころりん愛知

# 1. 活動の記録

## 1) 読み聞かせスタッフの派遣

### ① ブラジル人学校(エスコラ・ネクター)へ



スタッフも増えてきました。絵本を通じた、子ども達とのふれあいを大切にしています。



参加型の紙芝居が大人気です。



### 「一年間の活動を通して」 中野美智子

ポルトガル語で話す子どもたちに、1週間に2回、火曜、木曜日午前10時から30分絵本や紙芝居を持参して読み聞かせを行いました。また、子どもたちに好きな絵本を選んでもらい自由に読んでもらう「自由閲覧」の時間も設けました。

子どもたちは1歳から8歳と年齢にバラつきがあり、また日本語を理解できる子はほとんどいない中で、いかに絵本に関心を持たせることができるか、試行錯誤しながらの活動でした。絵が分かりやすい、可愛い動物が出てくる、文字の少ない等のものを選んでいましたが、読み聞かせの勉強会で参加型の紙芝居を教えて頂き、童心社の「おおきく おおきく おおきくなあれ」「ごきげんのわるいコックさん」などを使って、文中の言葉を皆で一緒に言ってみました。するととても集中し笑顔で一杯になり、幸せをもらうことができました。

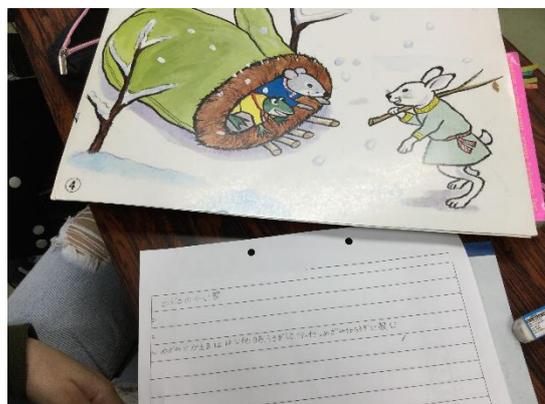
ある時、人見知りが激しく活動に参加しない女の子が、ポルトガル語のできる女性には笑顔を見せられているのに気が付きました。言葉が通じない怖さを感じていたのだと知らされました。その後は学校のスタッフの助けを借りて、ポルトガル語、日本語を話せる方に通訳をお願いしています。翻訳された絵本も積極的に活動に利用しています。

しかし、スタッフも子どもたちの顔ぶれも保護者の都合で流動的な中、環境が一定しません。ぶれないで活動ができるよう、ふりかえりと柔軟な対応を行い、なお一層の努力が必要だと感じています。

## ②NPOトルシーダとの協働(豊田市、みよし市)



保見教室では昔話を多く扱いました。



読み聞かせ後、教材として活用される場面もありました。

### 「一年間の活動を通して」小野則子

外国籍の青少年の日本での生活を支援する NPO トルシーダの保見教室、豊田市駅前教室で月に一度(春夏冬休みを除く)読み聞かせ活動を行いました。対象が小学校低学年から、17、18歳の青少年までと幅広く、母語も日本語能力も様々なことから、選書や読み聞かせの方法については試行錯誤の繰り返しでした。小学校高学年以上の子どもたちに読み聞かせの意味はあるのだろうか、悩んだこともしばしばでした。現在はトルシーダスタッフの助言もあり、日本文化の背景知識のない子どもたちに、日本の昔話を扱うことを主目的に選書をしています。日本の昔話だけでなく、世界のお話も取り上げてほしいとのリクエストもあり、3月にはウクライナ民話「てぶくろ」を取り上げました。小さな手袋にどんどん大きな動物が入っていく場面では「無理。だめー」と言いながらお話を楽しんでくれました。年齢の上の子どもたちに対する読み聞かせ活動は、これからも試行錯誤が続きます。楽しそうにお話に聞き入ってくれる子どもたちもの笑顔に支えられ、活動を継続していきます。

### 「一年間の活動を通して」岩本道子

NPO トルシーダが運営するみよし市学習交流センターの教室で、春夏冬のお休みを除き、月平均3回30分程度の読み聞かせと自由閲覧を行いました。主に小学校1~2年生の子どもたちで、日本語での学校生活から解放された放課後すぐの時間です。

毎回の悩みは、それぞれの子どもたちの日本語レベルや興味に合わせた選書です。絵本や紙芝居といえば子どもらしい楽しい空想の世界が良いと考えがちでしたが、それ以上に、身の回りの生き物や同じ年頃の主人公のものに強い興味を示すことが分かりました。この経験で選書の選択肢が増えました。また自由閲覧では、好きな本を見つけて自分自身で楽しめるようになってほしいと願うのですが、なかなかうまくいきませんでした。そんな中、自分でみんなに読んでみたいと意欲を口にする子どもが出てきて、実際に毎週簡単な紙芝居を読んでもくれるようになりました。始めは声も小さく上手に読めませんでしたが、年度末には上級生のリクエストに応じて大きな声で読めるようになっていました。今後の活動の目標が増えたように感じました。

## 2) 勉強会の開催

第一回：8月3日、場所は豊田市民活動センターで。紙芝居文化の会、青山和子氏から、紙芝居について講義いただきました。外国人児童に対する読み聞かせの方策を考えるうえで、大きなヒントとなる講座となりました。参加者は13名でした。



第二回：10月6日、場所は豊田市民活動センターで。とよた日本語学習支援システム、鈴木崇夫氏から、「継承語」という視点で外国にルーツを持つ子どもの言語習得に関わる問題について講義いただきました。参加者は6名でした。

第三回：1月10日、場所は保見交流館で。スコラ・モビルス山田理世氏から、多様な人種が住むブラジル、日系人が多く住む地域の紹介をいただきました。現地日系人の労働観、アイデンティティを非日系のブラジル人のそれと比べながらお話いただきました。参加者は8名でした。



### 3) 多言語電子絵本制作協力

多言語絵本の会 RAINBOW の多言語電子絵本制作の事業に協力しました。豊田市在住のライさん、カンチャンさんというお二人のネパール人に「はなさかじい」「つるのよめさま」「かさじぞう」の3作の翻訳と朗読をお願いし、録音、編集等のサポートをしました。また、NPO トルシーダがポルトガル語で同様の協力をしたため、当団体では録音と編集のお手伝いをいたしました。以下の URL でぜひご覧ください。

<http://www003.upp.so-net.ne.jp/ehon-rainbow/>



ネパール語翻訳、朗読協力のカンチャンさん



翻訳について語り合う、ライさん(右)

### 4) 多言語紙芝居制作協力

三重県国際交流財団 (MIEF) が、志摩半島大王崎ゆかりの民話「だんだらぼっち」をもとに、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語、中国語、日本語の5言語と志摩弁で楽しめるオリジナル紙芝居を作成。代表小野則子が制作委員会のメンバーとして参加しました。



紙芝居の表紙



各言語の通訳者らで構成された委員会

## 5) 他団体へのスタッフならびに講師派遣

### ①三重県国際交流財団（MIEF）による「親と子の多言語おはなし会」

1月21日、場所は鈴鹿市白子コミュニティーセンターにて。参加者は41名。当団体から2名スタッフとして参加して、MIEFが作成した「だんだらぼっち」紙芝居の日本語部分の読み手となり、おはなし教室活動を行いました。



### ②愛知県委託事業「子育て外国人日本語習得モデル事業」：NPO 希望の光受託

2月4日、場所は浄水交流館にて。参加者は9名。小野が多言語環境下で育つ子どもを持つ親の方々に、読み聞かせの重要性と楽しさを伝える活動を行いました。



### ③愛知県委託事業「子育て外国人日本語習得モデル事業」：NPO 希望の光受託

10月8日から2月4日までの間の計8回、場所は浄水交流館にて。上記②教室の託児協力をしました。託児の際に、折り紙、手遊び、絵本や紙芝居の読み聞かせを行うのと並行して、トルストイ作「おおきなかぶ」の劇を子どもたちと一緒に上演したり、テントウムシのかくれんぼをテーマにしたオリジナル紙芝居の一場面を子どもたちに制作したりする活動を行いました。一日平均4人のスタッフが活動に参加して、子どもたちが自然に絵本や紙芝居に触れる体験をしてもらう空間づくりを試みました。 ※写真は表紙と裏表紙に掲載

## 2. 助成金活用と会計報告

今年度はあいちモリコロ基金より助成金を受けることができ、絵本や紙芝居、大型絵本のスタンドなど、活動に不可欠な物を数多く購入することができました。また、昨年度からの活動に加え、特定非営利活動法人希望の光の県受託事業に参加するなど活動の幅も広がりましたが、予算内に収めることができました。

<b>2016 年度 おむすびころりん愛知 貸借対照表</b>			
2017.3. 31 末日			
借方		貸方	
H27 年度繰越金	¥30,063	H28 年度繰越金	¥94,675
正会員費(3 千円×4)	¥12,000	資材購入費(本その他)	¥78,006
一般会員費(千円×9)	¥9,000	外部講師謝金	¥15,000
賛助会員費(3 千円×11)	¥33,000	印刷代	¥11,632
寄付	¥45,548	交通費	¥83,551
受託事業費	¥125,000	通信費	¥410
もりころ助成金	¥300,000	事務・消耗品費	¥21,216
利息	¥1	機材・施設等賃借料	¥52,022
		人件費	¥191,500
		保険料	¥6,600
	¥554,612		¥554,612



(写真: 大型絵本スタンド)

### 3. 2016 年度の成果と課題

#### 成果

- ・読み聞かせのスタッフ派遣は 130 回、対象の子どもたちの延べ数約 900 名、読んだ本と紙芝居は 209 作品でした。多くの経験を通して、私たちの経験値が蓄積されてきた手ごたえを感じます。また、一年を通じて同じ場所に通うことで見えてくることがあると、改めて感じました。成長が速い子どもたちと接していると、成長に伴い子どもたちの本や紙芝居に対する反応も変わり、その変化を目の当たりにすることで教えられることが多かったです。
- ・紙芝居の持つ力を実感することができました。特に参加型の紙芝居は子どもと心をつなぐ助けになることを学びました。
- ・勉強会を主催することにより、外国にルーツを持つ子どもや親の方々を取りまく状況について知り、自分たちは絵本で何ができるのかを考える機会を得ることができました。
- ・多言語電子絵本や、多言語紙芝居の製作に協力することで、他地域の子どもたちが母語でお話に触れる機会を増やす一助となったと感じています。

#### 課題

- ・外国にルーツをもつ子どもたちへの読み聞かせに関する知識や、スキルアップ情報をスタッフ間で共有する機会が十分ではないと感じています。特にどのような子どもたちにどのような絵本や紙芝居を読み聞かせるか考えるための、「選書リスト」がないことが大きな課題となっています。
- ・日本語のみでの読み聞かせの限界を感じるが多々ありました。絵があっても意味が伝わりにくく、読み聞かせを十分に楽しんでもらえないという側面があることに気づきました。言葉が分からないことをとてもストレスに感じる子どもいて、母語の助けのない現場での読み聞かせ方法について考えることが必要だと感じました。
- ・

### 4. 2017 年度の目標

- ①読み聞かせ活動を続けます！
- ②就学前の児童に対する絵本選書リストを作成します。
- ③スタッフの勉強会を行い、読み聞かせの質の向上を目指します。

**ご支援本当にありがとうございました！**

以上

## 5. 資料

【読み聞かせスタッフ派遣回数】130回

	エスコーラ・ ネクター	NPO トルシーダ	計
4月	6	5	11
5月	8	6	14
6月	9	6	15
7月	8	4	12
8月	6	0	6
9月	9	5	14
10月	8	5	13
11月	9	3	12
12月	5	0	5
1月	6	1	7
2月	6	3	9
3月	9	3	11
計	89	41	130

【読み聞かせをした子どもたちの国と母語】

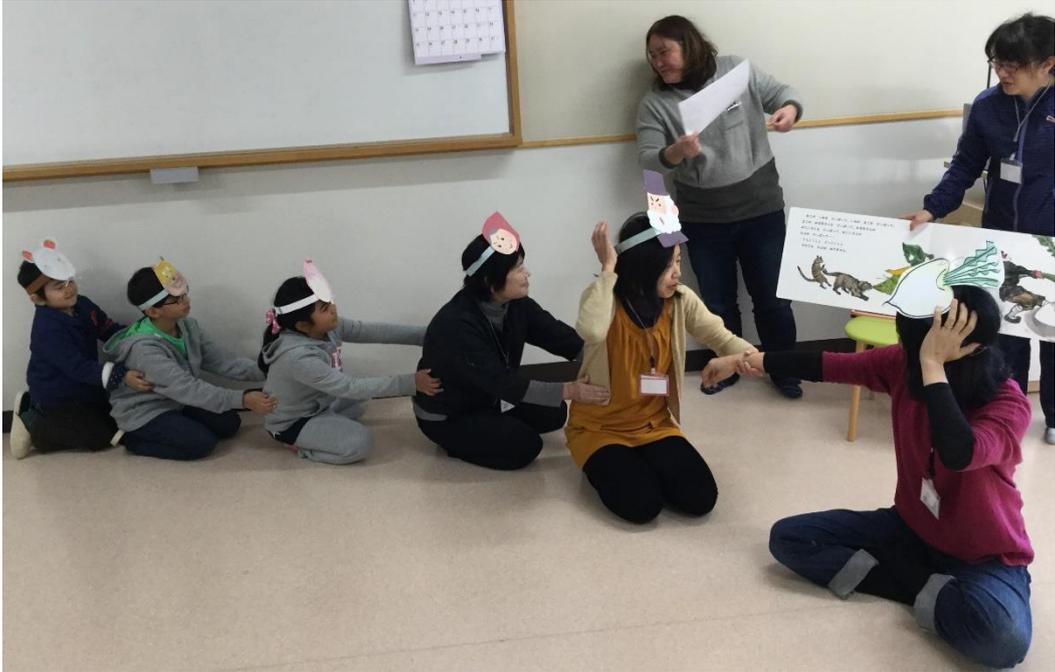
- ・ブラジル（ポルトガル語）・パキスタン（ウルドゥー語）
- ・フィリピン（タガログ語、ビサヤ語、パンパンガン語、他 総称してフィリピン語）
- ・パラグアイ（スペイン語）・中国（中国語）・ネパール（ネパール語）

【読み聞かせをした子どもたちの延べ人数】

約 900 名

【読み聞かせをした絵本と紙芝居等の総数】

209 作品



**おむすびころりん愛知**

Tel&Fax 0565-34-0339

omukoroaichi@gmail.com

<http://omubkoro.jimdo.com/>

<https://www.facebook.com/omusubikororinaichi/?pnref=story>